

小見川東地区



まちづくり計画

2014-2018

目 次

はじめに	1
緑豊かな自然に人々の生活が息づく古くからの伝承の里	2
たくさんの魅力、さまざまな課題	3
わたしたちのめざす小見川東地区	6
目標とする地域の実現のために	7
「みんなが参加する交流のまち」にするために	8
「安全で安心して暮らせるまち」にするために	9
【参考】小見川東地区の人口推移	10
【参考】小見川東地区まちづくりアンケート結果の概要	11

はじめに

小見川東地区まちづくり協議会が発足し、幾たびの話し合いを重ね、住民の皆さんの声を反映した「小見川東地区まちづくり計画」が完成しました。

この計画は、今後5年、小見川東地区はどんな地域を目指すのか、それを実現させるためにはどうすればいいのか、さまざまな分野にわたって計画を練ったもので、小見川東地区のまちづくりは、この計画に基づいて展開されていきます。

まちづくりの主人公は、わたしたち住民です。

住民一人ひとりがまちづくりに参加し、「この地域に住んでよかった」「この地域に住み続けたい」と、ひとりでも多くの住民が感じられる地域を一緒につくりましょう。



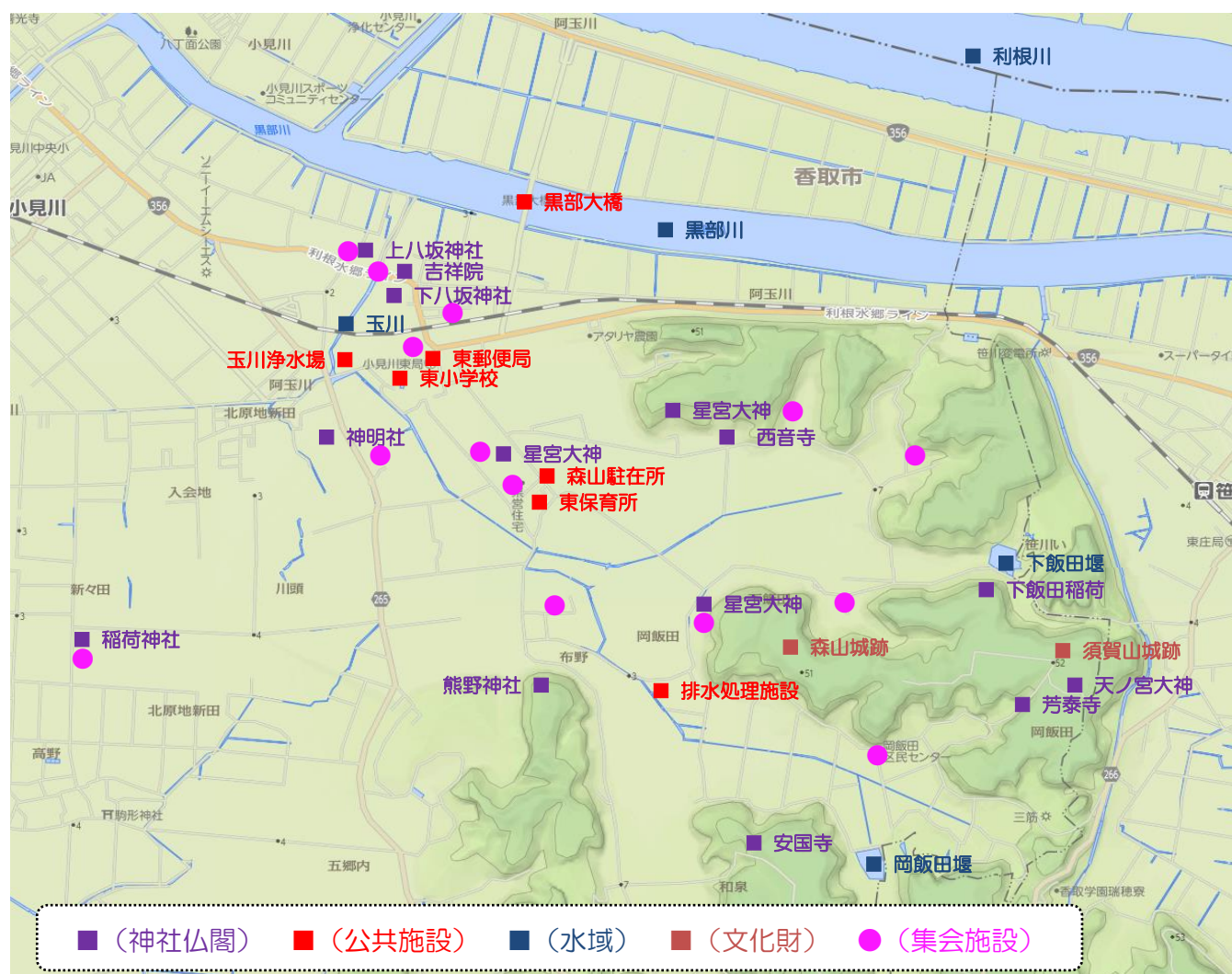
黒部大橋から長山を望む

豊かな自然に人々の生活が息づく古くからの伝承の里

小見川東地区は、香取市の東部に位置し、東は東庄町、北は利根川を境に茨城県神栖市と接しています。

地勢は、利根川、黒部川の豊かな水面と緑に恵まれた台地や平地で、長山の丘陵に沿って国道356号が走り、下飯田から岡飯田地域の丘陵には、鎌倉時代に森山城が築られました。

当地区は、明治22年町村制施行により森山村となり、昭和26年には小見川町、平成18年の市町村合併により香取市が誕生し現在に至っています。この「森山」という村名は「森山城」に由来しています。



たくさんの魅力、さまざまな課題

計画をつくるにあたって、小見川東地区まちづくりアンケート調査を実施し、多くの住民から小見川東地区の将来について貴重な声をいただきました。

アンケートの結果から、小見川東地区には、みんなで大切にしているたくさんの魅力と、「住んでよかった」「住み続けたい」と実感できる地域にするために解決しなければならないさまざまな課題があることがわかります。

東地区の魅力と課題をキーワードに、まちづくり活動のアイデアをみんなで出し合い、それぞれのつながりを大きく「ひと・交流」と「くらし・環境」の視点に整理しました。



役員会（計画策定）のようす

「ひと・交流」の視点

魅力と課題

- 人情がある
- 地域コミュニティの衰退
- 地域イベントを開催したい
- 地域の活性化
- 子育て支援
- 青少年育成
- 高齢者の見守り
- 老後の生活が不安
- 高齢者同士の交流
- 世代間の交流
- 魅力ある働く場が少ない
- コミュニティビジネス
- 移動販売



まちづくり活動のアイディア・意見

- 誰でも出入りでき、井戸端会議などができる場があればいい。
- 農協の広場にベンチを置き子供たちの遊び場をつくり、親たちが見守る。
- 森山城跡を自然公園とし、住民憩いの場とする。
- 北原地新田堰跡地にグランドゴルフ場をつくり、地域活性化を図る。
- 子供たちに稲作体験をしてもらう。
- プランターを使った花いっぱい運動をする。
- 花壇を作り交流の場とし、地域を草花で飾る。
- 散歩を兼ね、地域の高齢者を見守る。
- 子供から高齢者まで一同に楽しめる祭りを開催する。
- スポーツ大会等を開催する。
- ウォーキング大会を開催する。
- 北原地新田堰跡地にベンチを置いて、地域コミュニティの場とする。
- 地域住民と子供たちがふれ合える場をつくる。
- 工作、昔の遊びなどいろいろな体験教室を開催する。
- 子育ての負担を減らすため、学童保育をつくる。

「くらし・環境」の視点

魅力と課題

- ・豊かな自然
- ・犯罪が少ない
- ・リサイクルステーションの整備
- ・ゴミのポイ捨てをなくす
- ・野焼きをさせない
- ・不法投棄させない
- ・防犯体制に不安
- ・防犯灯が少ない
- ・生活道路の整備
- ・災害時の避難体制
- ・消防団の継続
- ・交通の便が悪い



まちづくり活動のアイデア・意見

- ・「道路愛護デー」を継続して実施していく。
- ・生活道路や黒部川の草刈り、ゴミ拾いを定期的実施する。
- ・ポイ捨て禁止看板を設置する。
- ・散歩をするときに、空き缶などのゴミを拾っていただく。
- ・10人程度のグループを作って自然を守る活動をしていく。
- ・カーブミラーの一斉点検をする。
- ・防災や防犯に関する勉強会を開催する。
- ・防犯灯の設置状況を見直して、地域が明るくなるように数を増やす。
- ・人材減少や設備が老朽化しているので消防団の統合を検討してみる。
- ・災害による被害が年々大きくなっているため、消防団の役割は重要だ。
- ・災害時の避難方法や場所を広報誌等により、住民に周知する。
- ・不法投棄箇所に防犯カメラ（ダミー）を設置する。
- ・不法投棄箇所に太陽光で動く赤色回転灯を設置する。
- ・ポイ捨てや不法投棄を発見したときの連絡する場所を設ける。
- ・清掃や草刈りに必要な備品を整える。

わたしたちのめざす小見川東地区

小見川東地区のたくさんの魅力を強みとして活かしながら、いろいろな課題を解決していくことができれば、小見川東地区は今よりも確実に「住んでよかった」「住み続けたい」と実感できる地域に変わっていきます。

小見川東地区のまちづくりを進めるにあたって「ひと・交流」、「くらし・環境」の視点ごとに、私たちの目指す目標・将来像を設定しました。

「ひと・交流」の視点



みんなが参加する交流のまち

気軽にコミュニケーションをとることのできる環境づくりを進め、住民の活発な交流を図ることにより、まちづくりの担い手を育てていくとともに、住民が連携し、お互いに助け合い支え合っていくことのできるまちづくりをすすめます。

「くらし・環境」の視点



安全で安心して暮らせるまち

地域の資源ともいえる豊かな自然を大切にするとともに、ゴミの問題、生活道路の維持などの身近な課題への対応から、災害に強く、犯罪の起こりにくい地域環境の整備を通して、住民が安全で安心して暮らせるまちづくりをすすめます。

目標とする地域の実現のために

目標とする小見川東地区を実現させていくために、これまで出された個々のまちづくり活動のアイデアを参考にしながら、さらにいいアイデアをみんなで考え、どのような活動をしていくか話し合い、まとめました。

活動には、住民一人ひとりが活動に参加してもらえるように、また活動が将来にわたって続けていけるように、「楽しい」、「面白い」、「喜ばれる」要素を何らか取り入れるようにしました。





「みんなが参加する交流のまち」にするために

活動計画

◇地域の「たまり場」をつくる

ベンチを設置したり、地域の空き地、空き教室などの活用を検討したりして、いつでも、だれでも、気軽に集まり、なんでも話のできる地域の「たまり場」をつくり、地域コミュニティ活動の拠点とします。

地域コミュニティを深めることにより、高齢者の見守りや子育て支援など住民が連携し、お互いに助け合い支え合う地域づくりをすすめます。

◇地域イベントを開催する

子供から高齢者まで一緒になって楽しむことのできるスポーツイベントや体験教室などを開催することにより、住民相互の交流を図ります。

地域の皆さんの健康増進や、歴史や食といった小見川東地区ならではの特色を活かしたイベントを企画します。



◇地域の広報誌を発行する

毎年策定する具体的な活動計画などを周知するとともに、地域で活躍されているボランティアやグループを地域の皆さんに紹介することにより、情報の共有化を図り、まちづくりへの理解を深めます。



「安全で安心して暮らせるまち」にするために

活動計画

◇美しい地域を守る

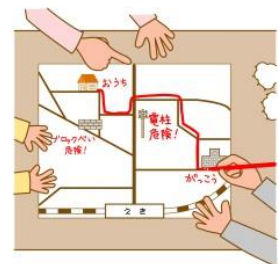
地域に定着している「道路愛護デー」や「ゴミゼロ運動」などの地域美化活動をより充実させ、清潔で美しい地域を守ります。

また、散歩の合間など無理のない範囲で地域美化活動に協力してくれるボランティアやグループを募集し、活動に必要な支援を行います。

◇防災意識を高める

行政等と連携した防災に関する勉強会の開催や住民同士が地域防災について考える機会をつくり、地域全体の防災意識を高めます。

災害発生時に備え、避難場所や生活用水として利用可能な井戸の位置、過去の浸水箇所などを情報交換しながら小見川東地区全体の防災マップをつくり、周知していきます。



◇防犯体制を充実させる

防犯灯の設置状況を改めて見直し、より効果的な防犯灯の設置を進めることや、地域で活躍されているボランティアやグループなどと連携することで、防犯体制を充実させ、犯罪を未然に防止し、地域の安全・安心を確保します。

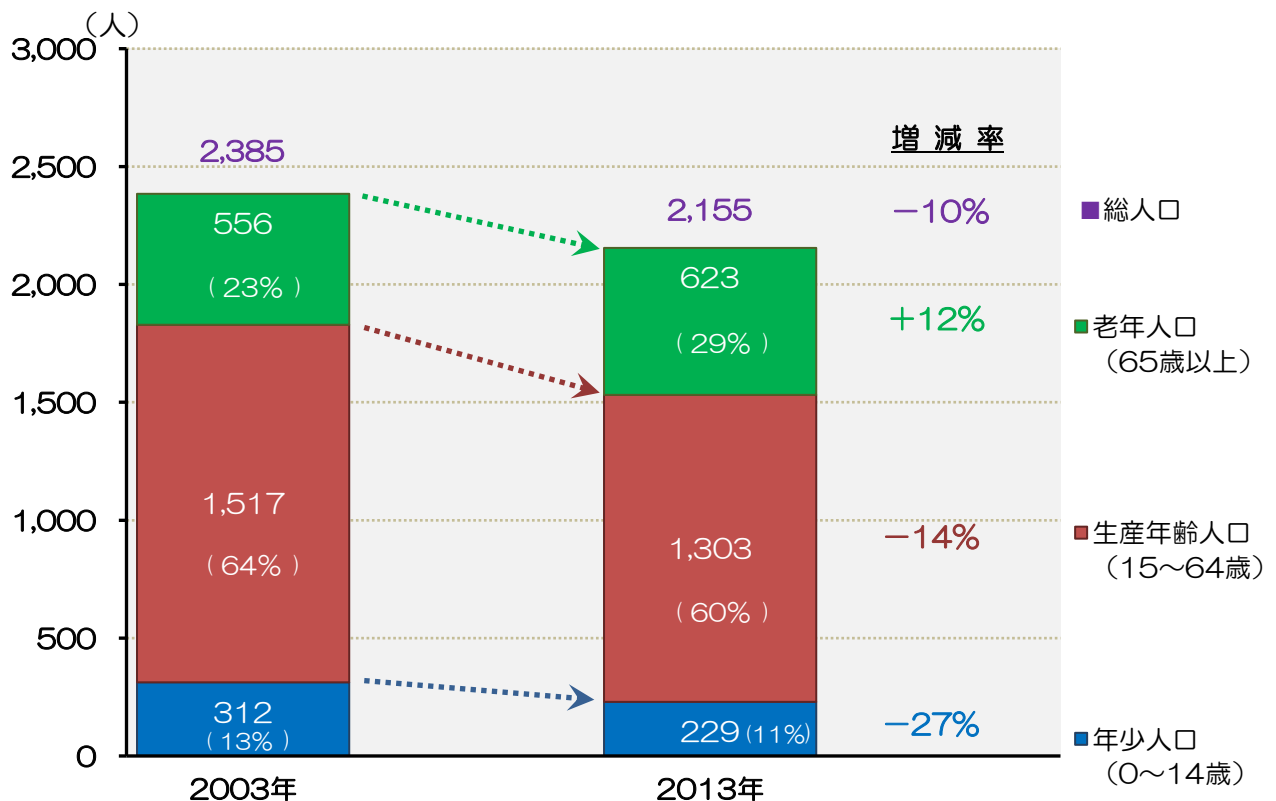
【参考】 小見川東地区の人口推移

小見川東地区の人口を 10 年前と比較すると 230 人（10%）減少しています。

また、年齢階層別人口を比較すると、比率、増減率ともに 14 歳以下の年少人口及び 15～64 歳の生産年齢人口が減少する一方で、65 歳以上の老年人口、いわゆる高齢者人口が大幅に増加しています。

このことから、小見川東地区においても、人口減少、少子高齢化が進んでいることがわかります。

小見川東地区の人口推移（2003 年→2013 年）



出典 「千葉県年齢別・町丁字別人口」

【参考】 小見川東地区まちづくりアンケート結果の概要

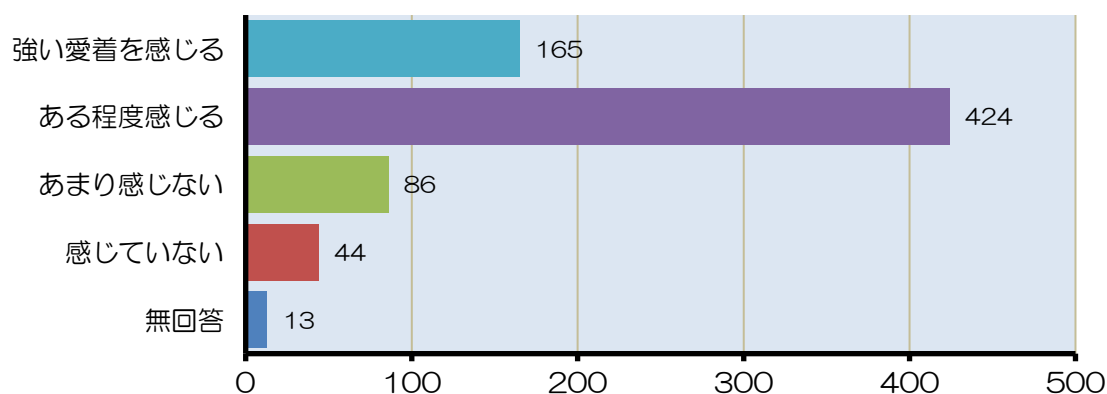
これからのまちづくりに対する地域住民の皆さんのニーズや意見を把握し、計画に反映させていくために小見川東地区まちづくりアンケート調査を実施しました。

◇アンケート調査の概要

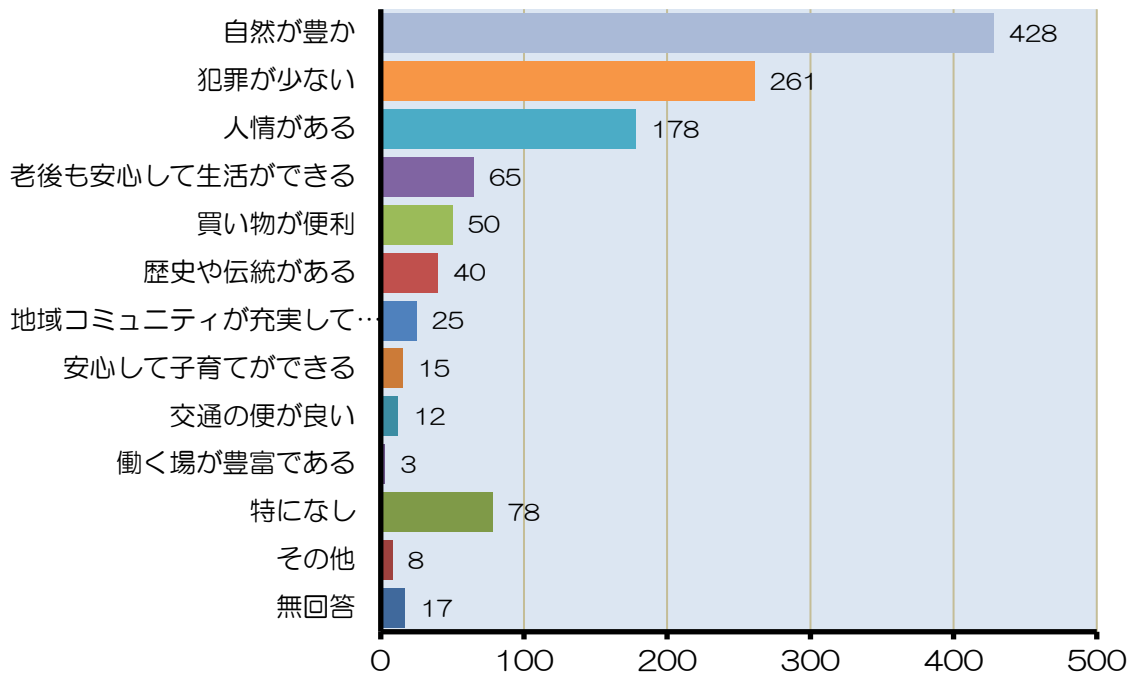
調査対象	小見川東地区（阿玉川、下飯田、県営住宅、川頭、布野、北原地新田、岡飯田）の全世帯（各世帯2名、単身世帯は1名）
対象者数	1,087人 (567世帯×2人 - 単身世帯と回答のあったもの 47)
回答数	732件 (うち男性 380件、女性 346件、性別無回答 6件)
回答率	67.3%
調査期間	平成25年8月1日～31日

◇調査結果の概要

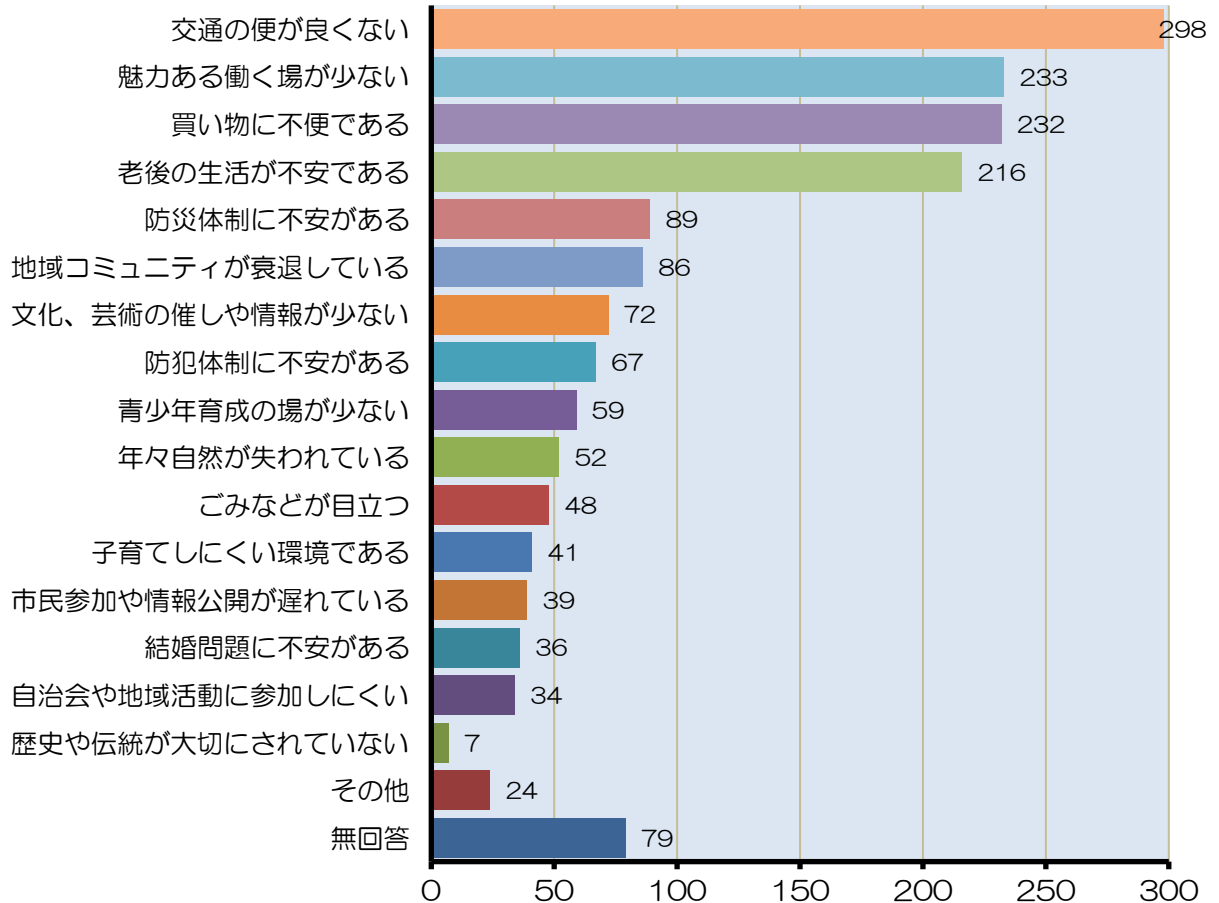
「地区への愛着について」



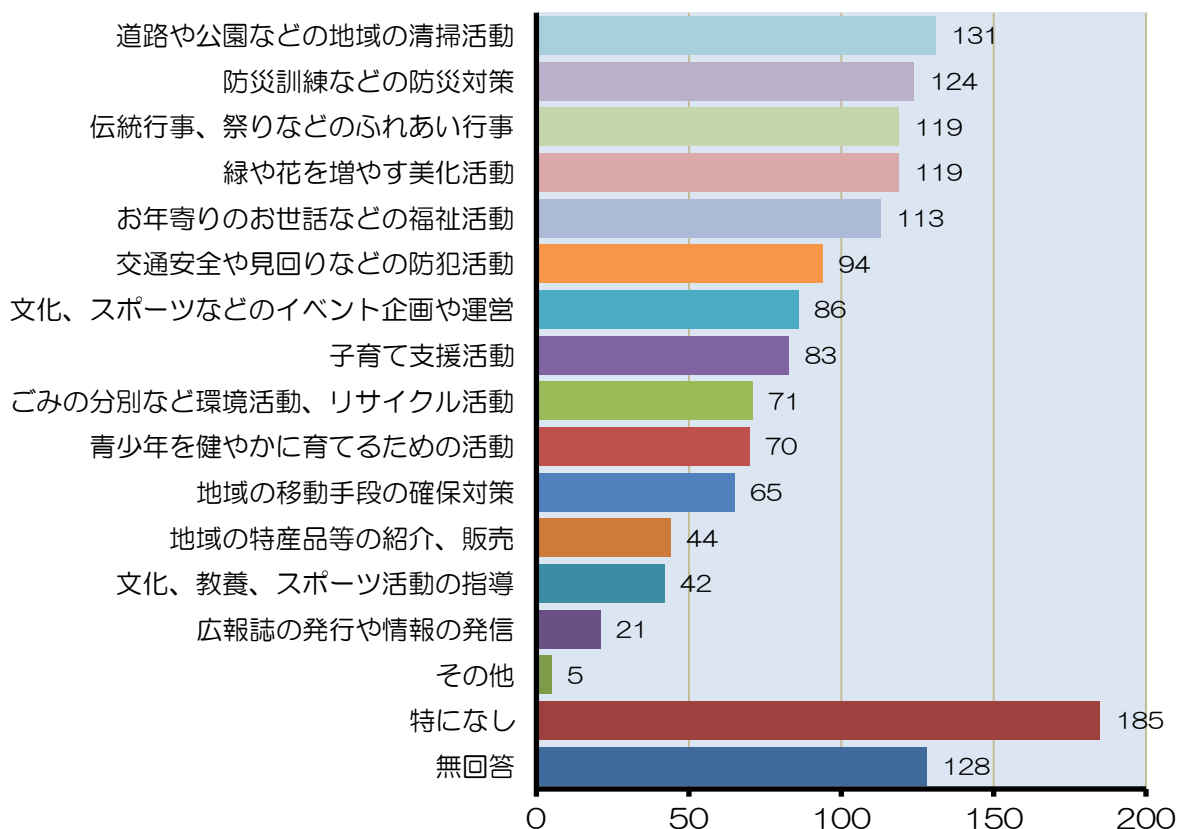
「地区の良いところ」(2つまで回答)



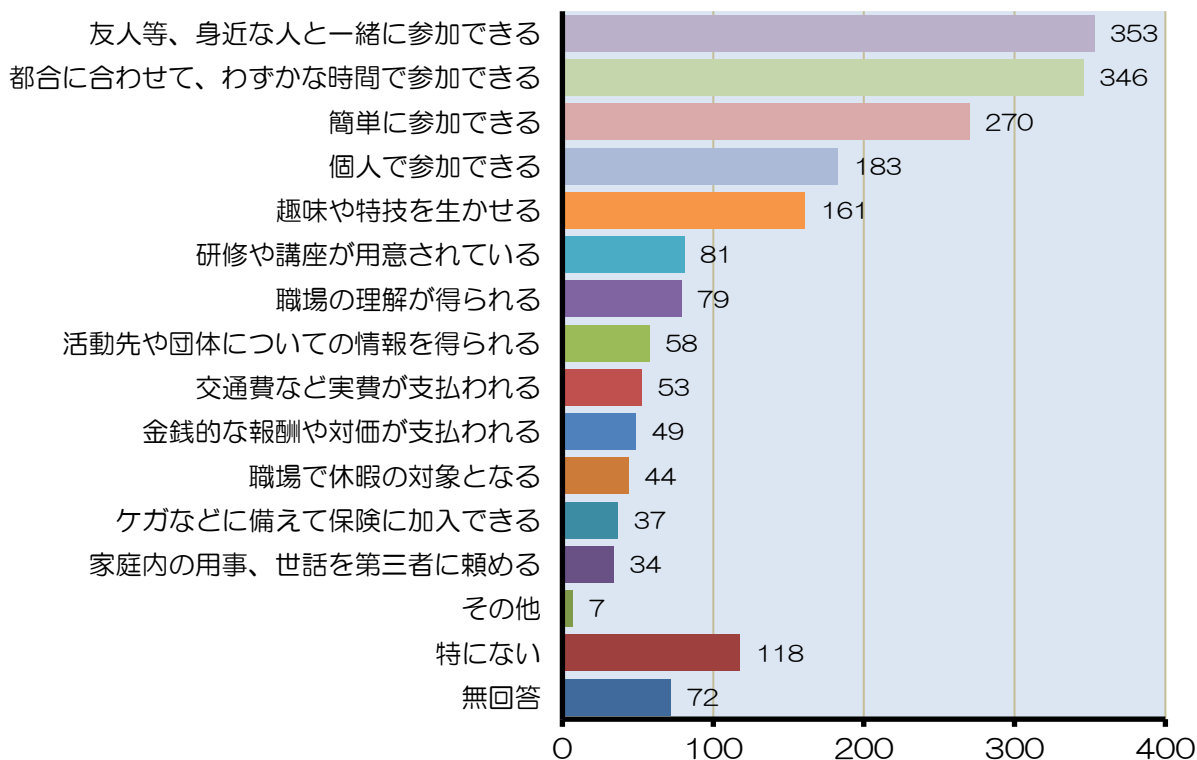
「地区の住みづらいつと感じるところ」(3つまで回答)



「どのような活動に参加したいと思いますか」(5つまで回答)



「どのような条件があれば参加しやすいですか」(5つまで回答)



小見川東地区



まちづくり計画

2014-2018

平成26年3月

編集・発行 小見川東地区まちづくり協議会